

芸術文化創造センター管理運営実施計画 骨子案に対するパブリックコメント募集結果

平成26年3月13日

資料3

1. パブリックコメントの募集概要

【募集期間】

平成26年2月10日～平成26年3月11日

【募集方法】

「意見記入用紙」へ記入。または、電子メール

【配布場所】

窓口での閲覧（文化政策課、タウンセンター、（マロニエ・いずみ・こゆるぎ）、支所・連絡所等）、市ホームページへの掲載、広報への掲載

2. パブリックコメントの集計結果

※【住所】、【市内の内訳】、【年齢】、【性別】については、ご記入いただいた方のみ計上しています。

【パブリックコメント提出者数】

30人

【意見等件数】

115件

【住所】

市内：26人（川東地区：3人、川西地区：15人）、市外：3人、その他：1人

【年齢】

20代：0人、30代：0人、40代：3人、50代：5人、60代：9人、70代：4人、80代：0人

【性別】

男性：19人、女性：7人

【提出方法】

郵送：0人、FAX：9人、メール：7人、投稿フォーム：10人、窓口：4人、その他：0人

【意見件数一覧】

115件

1. 管理運営実施計画策定の位置付け	3件
2. 芸術文化創造センターの役割	17件
3. 事業	34件
4. 市民参加	11件
5. 施設提供	7件
6. 広報	5件
7. 運営	15件
8. 収支	7件
9. 評価	3件
10. その他	13件

パブリックコメント意見一覧【管理運営実施計画】

■管理運営実施計画 骨子案について

1. 管理運営実施計画策定の位置付け

No.	意見
1	「文化」の捉え方は時代・人によって大きく異なる。画一的・限定的企画では市民の為にならないと感じた。同じ内容の繰り返しでまとまりが無く、具体性に欠けている。実際の利用に即した施設を希望する。 全てのジャンルを網羅しようとする、全ての分野で使い勝手の悪い物となる。土地の歴史をふまえ、特出した設備を確保すれば、首都圏からの支持も見込めるように感じる。 重要なのは「教育」であるが、それを実施する人材とその先の伝承を支援しなければならない。「人」のために価値ある箱を作って頂きたい。
2	題記の骨子案は十分検討されていると存じます。何かの学术论文の様で正直疲れました。これを原典とするならもっと要点をまとめたガイドブック的レベルの方が読む側に理解し易く関係者が同一レベルで考えや方針を理解し活性化が促進すると存じます。
3	今日までの市民の要望・提案には、国・県の役割を担う「施設案」と、地方公共団体が役割を担う「施設」が混在した要望になっていないか、特に実施設計へと進むにあたり見直しと検証を進言したい。

2. 芸術文化創造センターの役割

No.	意見
4	文化の振興をブリの森、樹の成長にたとえて、成長していくイメージの計画になっているところが良いと思います。なかなか、難しいとは思いますが、一般のホールのようにオープン時だけにぎやかで、だんだんと静かになってしまうよりは、市民文化の成長とともに文化予算も、少しずつ増えていくような新しい計画として、策定していただくようお願いいたします。
5	小田原市内だけでなく、県西地域をカバーできる施設として、事業も広報も行ってほしいと思います。そうすれば、小田原市だけの財政で考えるのではなく、少なくとも利用者の分母は増え、にぎわう施設となると思います。
6	すばらしい計画だと思います。今後の発展を期待します。
7	文言の中には『ゼロから』『創造』とこれからの事ばかりが述べられているが、今までの積み重ね、歴史、先人たちが築いてきた文化について触れられていないことが誠に残念。
8	イラストの中の文言は市民ホール、イラストの中では芸術文化創造センター このイラストの示すところはなんなのか??表現はなるべく統一して欲しい。
9	呼称について『芸術文化創造センター』ではいかにも堅苦しく、言わんとすることはわかるが、とても文化力、創造力、感性が高まるとは思えない。開館の際にはそれにふさわしい名称に変わっている事を期待する。
10	もし仮にネーミングライツなどを使うのであれば契約期間をアメリカンのように長期契約とすること、入札最低金額を採算が合うように設定、正式名称ではなく【愛称】としての命名権とするのが良いかと思う。またその際は額面上の金額以外の付加価値も考慮の対象として欲しい(企業協力など)。 しかし個人として愛称や通称などは市民が自然に呼び始める名前が良いように思う。 例えば公募して愛称がや名称が決まったからといって市民がそう呼ぶとは限らない。そういう前例は小田原市にもあるので、それを踏まえて再度考えていただきたい

11	<p>【小田原市の文化状況】の中でも書かれているが、まず地元の人が地元の歴史、郷土史を知らな過ぎる。またこれは役所などで働く公的機関の職員にも言えること。</p> <p>【4つの使命（ミッション）】の中でも書かれているが、年齢に限らず地元の歴史を深く学ぶことにより地元の文化と郷土愛を育てたい。ただし、史実と物語を混同してはならない、実例で出すと『風魔忍者が小田原にいた』などと歴史の裏付けもないことを平気で言うような事はまずもってしてはならない。風魔忍者を町おこしに利用するには大いに賛成するが、物語は物語、歴史は歴史とちゃんと分けて考えていただきたい。歴史や文化を町の人に再び浸透させるにしても、このような間違えた知識は浸透させないで欲しい。</p>
12	<p>【4つの使命（ミッション）】ブリの森プロジェクトを例えに出されているが、木が人や子供、人材で、森が団体や集団、イベント、海が街の文化や人の心の豊かさかと思っただが、文末でたくさんのブリと子供の笑顔をかけているが、意味がいまひとつわからない？</p> <p>ブリは森や海が豊かなことの副産物だと思うのだが、町の人々の心が豊かになることの産物が子供の笑顔だと言っているのだろうか？</p> <p>個人的には心の豊かさや笑顔は＝なのだが、文化政策課の中で言わんとしているところの木はなんなのか？森はなんなのか？海はなんなのか？ブリはなんなのか？</p> <p>あくまでもイメージを伝えたいだけなのかも知れないが、骨子に載せる説明としてはもう少し具体的なわかりやすい文章にしていきたい。</p>
13	<p>【芸術文化創造センターの4つの使命（ミッション）】の中の‘育成普及’と‘鑑賞の提供’についてだが、よく小田原のイベントなどで『本物を見せる』的なお題目を目にすることが多い</p> <p>主催者の意気込みなのかも知れないが、果たして本物とは何なのか？本物の芸術とは何なのか？本物のアートとは何なのか？</p> <p>くれぐれも子供や一般市民に向かって『これが本物だ！』なんて押し付けるのどうかと思う。</p> <p>芸術に関して製作者の自己主張は望むべきものだが、鑑賞側にそれを押し付けられるのは御免こうむりたい。</p> <p>むしろ子供や鑑賞者が自分にあった、自分の琴線に触れた自分なりの本物を見つける手助けができるような流れやイベント、仕組みを考えていただきたい。</p> <p>特に現代においてアートやカルチャーは多種多様多岐に広がっている。</p> <p>なので、つとに鑑賞者には【自分で選ぶ】、そして文化創造センターには鑑賞者が【選べる】企画に努めて欲しい</p>
14	<p>【芸術文化創造センターのコンセプト図】の中に商工会、企業、地域経済を巻き込む的な図が示されているが、今現在は巻き込むどころか真っ向から建設計画に反対されていると思われる。</p> <p>何度か市民ワーキングや説明会の際のアンケートにワーキングなどの席に来てくれるような手立てをと述べてきたが叶わなかった。</p> <p>今後、いかに巻き込んでいくか、交流を図っていくかなどの策があるのか無いのか、実行するのか？しないのか？非常に心配するところ</p>
15	<p>センター運営管理で最も考えねばならない問題とは、「では、若い人の機会をどう作るのか？」にあると考えられます。今現在、既に演劇や音楽、アートに取り組んでいる若い人たちへ、何をどう支援していくか、の具体策が何も策定されていません。彼らが創造する場、発表する場、交流する場、の「若い人への場づくり」支援こそ、文化の継続性を担保する上で、最も重要な施策ではないでしょうか。</p> <p>文化の担い手の継続性をどう担保していくのか？ 全ての年齢層、特に次世代の文化の担い手である若者たちが、オープンであると感じて集い、彼ら独創的な自主事業が次々と企画され易くなるような施策を打つことこそ、行政側（センター側）が諸団体と離れて、考え実施せねばならない役割だと思います。</p>
16	<p>「芸術文化創造センター」として、こうありたいという理想を見せられた印象です。しかし言葉が多く、分かりにくい。</p> <p>意味の伝わらないカタカナ言葉を日本語でもっと簡潔に表現できないのでしょうか。4つの使命についても市民の具体的要望について、こうしますという明確な説明があったら良かったと思います。</p>
17	<p>芸術文化の花を咲かせ、文化力を高める… 子供から大人まで…芸術文化には色々な分野があり、わくわくして・みんなで楽しめて、仲間もできる。それを多くの人に知ってもらうにはどうするか。</p> <p>「難しく考えず、出来る事から実行する」 これを基本に進めて頂きたい。</p>

18	<p><基本理念></p> <p>(1) 多様で豊かな市民の芸術文化創造活動の現状はどのようなものであるか？</p> <p>(2) そして、将来はどのような姿を求めるのか？</p> <p>(3) クリエイティブな力と熱意とは具体的に何を求めているのか？</p> <p>(4) 市民ホールから街へと溢れた未来はどのような展開なのか？</p> <p>(5) (未来に) 開かれた文化都市というのは具体的に何を示しているのか？</p>
19	<p><呼称></p> <p>“芸術文化創造センター” という名称は、いずれニックネームを募集することが必要と思いますが、“芸術” “芸術文化” そして”文化“の3つの言葉を整理して考えなければならないと思います。</p> <p>文化という広い概念でこのセンターの管理運営を考えるのか、芸術文化という定義づけられた範囲で考えるかという違いがあると思うからです。</p>
20	<p><基本理念・使命></p> <p>7ページで育成普及の項で、子供たちに言及しているが、この全世代にわたる育成活動が必要ではないでしょうか？</p> <p>しも現状の課題把握を行ったならば、子供たちを育てるためには、周囲の大人の育成、成長が不可欠なことに気が付くと思われます。</p>

3. 事業

No.	意見
21	<p>開館記念事業について</p> <p>・三沢厚彦展（彫刻）</p> <p>現代彫刻界の人気作家であり、平成19年平塚市美術館での展覧会では多くの入場者があった。特に子供に人気があり親子連れが多く、アートのすそ野を広げている。小田原市内にアトリエを構え地縁もあり、オープニングにふさわしい。ただし数年先まで美術館での展覧会が入っているはずなので、アトリエの関係者を通じ懇願しないと実現はむずかしいと思われます。</p>
22	<p>個人的には長年伺っておりますオペラやクラシックコンサートの企画を、経済的に許す限り、新設ホールにおいても開催出来ますれば幸いです。</p>
23	<p>【事業の基本方針と方向性】において育成事業、鑑賞事業、参加事業、地域発信事業、交流事業、にぎわい創出事業、施設提供事業の七つの事業の基本方針が示されているが、先の項で【4つの使命】と言うのも示されている。育成普及、鑑賞の提供、芸術文化創造、施設の提供重複しているものもあるが、基本方針と使命を分けた意味、意図はなにかあるのか？</p> <p>七つの中でさらにその4つは力を入れてやると言うことなのか？優劣をつけるものなのか？</p> <p>わかりづらい</p>
24	<p>【育成事業】の中に（1）の②と（3）自主事業の基礎作りの中の育成の中でアーティストの育成と書かれているが、例えば特定のアーティストや事務所、団体などに対する優遇処置などの具体的な案などはあるのか？どのような形で育成を考えているのか？</p> <p>具体的『なにか』を示し応援していくべきだと考える。</p> <p>税金の優遇、住まいの提供、発表の場の提供などまで考えているのか？</p> <p>例えば杉並区におけるアニメーション関係の会社などへの事例などは参考にされたりするのか？</p> <p>また、その際は小田原市に縛るのではなく、世界への雄飛の場としての小田原、市民ホールとして欲しいし、そうであって欲しい。</p> <p>それによりワールドワイドに活躍できるアーティストの育成へと繋げていただきたい。</p> <p>小田原からの発信ではなく、世界から小田原を発信できるようなアーティストなどの育成に努めていただきたい</p>
25	<p>【鑑賞事業】 【参加事業】 【地域発信事業】 の三つの事業については、事業の前に授業が必要なのではないか？</p> <p>まず地元の事をよりもっと知るところから始めて欲しい。</p>

26	④の中の発信事業と⑦の中の発信事業との明確な違いはなんなのか？
27	⑤の中のコミュニティの活性化事業、⑦の市民活動支援事業について、今現在でも既存の団体だけが優遇されているなどと言う意見があるので、これら事業においても特定の市民活動、特定のコミュニティだけが優遇されるような仕組みにはしないでいただきたい。
28	(3) 自主事業の基礎作りの中の育成の中で子供たちへ事業に特に力を入れるとの記載がある。それ自体には問題はなく賛成なのだが、子供でもなく大人でもない大学生や高校生、大学卒業したての20代などの若手への育成の場、発表の場などについても考えていただきたい。 幼少期などの子供の時期を芽生えとし、発芽を促す事業もちろんなのだが、芽生えから開花まではしっかりと【同じように】【特に】力を入れていただきたい。
29	【市民参加制作事業から地域の魅力発信へ】の中での芸術家ならではの視点とあるが、芸術家のレベルや知名度、作風などによるところが多いと思われる。また世間に賛否をかもすような作品だった場合に世間から作者を守れるのか？しっかりとメリットデメリットも考えていただきたい。
30	【市民参加制作事業 実施の展開】 この図だが地域のスポンサーが抜けているのではないか？？応募者と云うくくりになるのか？ また出会うことにより何かが生まれ、それを育てることもあると考える。それなのに最初から実施の展開は「こうだ！」と印象つけてしまうのはいかがなものかと思う。
31	(4) 事業計画には市民のニーズや提案を反映させてとあるが、市民ワーキングのように市民の意見を聞きすぎても大変なことになってしまうかと思われる。逆に小田原とは関係のない専門家の意見を聞きすぎて「ほかの事例ではこうだから」と云われると他の真似のようになってしまい新たなものが創造されるのか疑問に思ってしまう。
32	【開始前の事業展開】にアウトリーチで芸術系の大学との連携とあるが、これは芸術系に絞ってしまうのはもったいない、またアウトリーチだけに絞るのももったいない。ワークショップであったり、演奏であったりを小田原でおこない関係性を深めたり、小田原を知ってもらうことも重要と考える。
33	② 【方向性】の中にセンターの持つ機能を多くの市民に伝える事業とあるが、既存の市内の施設の機能も伝えきれていないという事実と反省の上に事業を展開していただきたい。
34	【開館～初期の事業計画】市民企画提案事業とあるが、この事業の流れこそ図でしめしていただきたい。またこの企画提案事業は今現在小田原市で主催が小田原市でないものはすべてこれに当てはまるものなのか？
35	③定着期の中の【方向性】に芸術文化の日常生活への浸透とあるが、逆に非日常の中にある異質な芸術やカルチャーなどもホールでは提示していただきたい。
36	(5) プレ事業及び開館記念事業についてだが、これは今すぐにでも検討を始めてよいのではないか？ 平等な実行委員組織を作り市民ワーキングであげられた企画でジャンルを絞り実現可能なものをプレ事業にあててはどうか？実行委員は市民ワーキングの出席率の高い人から希望する人を選択し、そののちに他から補充する数段階を踏んでどうか？ 市民公募はそれで足りないものを補充する形でよいのではないか？ 市民ワーキングにはなにかやりたいことがあって参加した人が多い。

37	平成26年度では、いろいろな場所でセンターの模型を展示すべきです。
38	最も重要なことは、開会セレモニーにあるのではなく、「開館後の5年間で、どうセンター運営の仕組みと諸事業を定着させられるか？」にあると考えます。そして、そのためにプレ事業で何を仕込んでおくかが重要だと考えます。市民参加には、管理運営の主体性・自主性が絶対に必要である、という点に注目すべきであるということこそ、言いたいのです。
39	開館前までには、是非とも「高校生・大学生を対象としたアート・マネージメント講座」を開催していただきたいと思います。また、バラバラな意見と立場の市民サポートをどうまとめるかです。一つの考え方は、「サポート人材は、小田原市民に限らない」とすることではないでしょうか。サポート人材をどうまとめ、活性化、持続化できるかは、厚木市の例にもあるように、各市町村で果敢に取り組み、先進事例がたくさんあります。まずは、そのような事例を集め、小田原として取り組みやすい施策をまとめ上げたら如何でしょうか。そのような調査と取りまとめを、26年度の市民ワークショップで取り組んではいかがでしょうか。
40	P12～13の開館前事業展開 現在行われているさまざまな取り組みが、大きな流れにむかってのひとつひとつであるということが、もうひとつよく見えにくいように感じます。気を付けてみればわかるのですが、今後はもっと目立つようにしていただきたいです。
41	長期間の見通しをたて、段階をふんで、事業等の質を高めていくことは大切なことだと思います。ただあくまで計画ですから、柔軟に対応してほしい。
42	P10に関連して …近年自主事業が減少して… とあるが、その辺の原因はどこにあるのか。検討されて、三つの柱が生まれたと解釈してよろしいでしょうか。
43	新しいホールで展開したいこと。 ①横浜や各市区町村で多く行われている市民参加型の芝居・ミュージカル等が立ち上げられれば良いと思います。 ②現行の市民演劇祭を“平塚市民演劇フェスティバル”←芝居屋は参加団体の様な形式にして、劇団・その顧客や関係者の交流に繋げ、更に音楽や展示（まちなか商店街）との相互交流に発展できればと思っています。 ③上記のためには、コーディネーターが必須であり、必要人材の公募は広い情報開示の上でなされて欲しいと思います。他市との協力・共存も深めたい。 ④各ジャンルごとにバラバラで（自身も）、切ないですが、個人的には自分の活動との両立は困難でもあります。
44	・「アウトリーチ」のグループ紹介等(グループ名・活動実績…訪問先)の一覧表。 ・「アウトリーチ」には、「行きます・します」に対し「やって下さい・来て下さい」が一致して成立します。その意味では、「市報」等を活用した更なるPRをすべきと考えます。 三の丸小・新玉小に「神フィル」がきて演奏した。「小田フィル」は問合せがなかったのか、あったが平日のため対応できなかったのか、今後のための調査が必要。こういうことを当事者間で事実確認しておくことが、今後のアウトリーチ計画に生かされると考えます。 ・「アウトリーチ」が文化芸術の活性化に占める役割は大きい。受け入れる幼児施設や、小・中校等に関し本市の教育委員会はどのように考えているか、横の連携が大切と感じる。 ・アウトリーチを市文連組織に呼びかける。 …反応がなければ一般公募
45	クロージングイベント計画をスタートさせる …オープニングイベントのテストとして活用できるので是非実現してほしい。
46	「プロのオペラ」を招聘した場合の費用は？ 計画を公開してほしい。同時に「藤沢市民オペラ」と比較して、この小田原で実行する場合のプラン等も同時に公開してほしい。 …何故か。「オペラ」は、プロの鑑賞・市民オペラ 何れにしても膨大な資金を要す芸術で、まず資金調達目途を確立することが先決と、経験者から聞いているため。

47	F M小田原と共同事業 特にコンサートなどに参加できない人のために後日放送など
48	チケット入手のしやすさの向上
49	音楽フィールド(特にクラシック畑)の声が大きく、美術サイドの反映があまり見えてこない感じがします。その点においての意見を書きます。 鑑賞事業としてアートの展覧会が企画されているようですが、その際 “鑑賞教育” という視点が必要だと考えます。 育成事業の一環として、学校等へのアウトリーチが挙げられていますが、学校教育の舞台芸術の鑑賞教室以外に、展覧会の鑑賞も実施していただきたいと思 います。 また、地域ゆかりの歴史文化を活かした伝統芸能ワークショップも挙げられていますが、顕彰されるべき優れた美術家も多数輩出していますので、それらを探 り上げた展覧会も実施していただきたく思います。
50	8ページ、14ページ及び16ページでの7つの事業基本方針について、7ページの4つの使命とどう結びつくかを具体的に提示する必要があるかと思 います。
51	9ページでは、市の文化政策と芸術文化創造センターの仕事をAとBCDで区分して、市の文化政策については、明確な結びつきを記載していませんが、A市の文化 政策はDの施設提供も含めてとらえられるべきであり、芸術文化創造センターが、市の文化活動の発信センターとして位置づけられるならば、より密接なつな がり記載されるべきと思われます。
52	17ページ②開館事業の開館公演については、市民主体の事業を実施とありますが、それも重要ですが、内外に発信するためにも、芸術文化の完成度の高いもの でなくてはならず、市民主体にこだわりすぎて、その完成度を下げることのないように、“完成度”と市民主体の両面のバランスを図るべきと思 います。
53	以前にも提案しましたが、検討委員を中心に音楽・展示・演劇など、自主的な「さよなら、市民会館」と名を付け、やってみてはと思います。 開館迄あまり時間もなくなってきました。実践の中で学びながら、改善してみてはどうでしょうか？
54	市民企画も勿論ですが、今迄ホールが古い為に来場されなかった人も自主企画で沢山呼んでほしいと思 います。 まだまだ細かな実践データが足りません。 実際の市民ニーズを再度洗い出し、時間区分などをわかりやすくして今回のスタジオ、ホールを上手に使いこなしていきたいと思 います。

4. 市民参加

No.	意見
57	秦野や厚木では、会館が若手演奏家をオーディションして、演奏会などで取り上げる事業を行っている。 小田原にも同様に才能ある若手演奏家がいると思うので、ぜひ発掘してほしい。 発掘や支援にあたっては、市民による応援サポーターのようなものを組織してはどうか。 3年や5年といった期間を決めて継続的に支援したり、年度末に入れ替えオーディションをしたりして、緊張感のある支援システムができるとよい。 できるならば、現在、活動している文化団体との利害が絡まない、新しい流れができるとよい。 現存の文化団体は考え方が固定し、フレッシュさが無い。
58	①【市民参加の内容】の中に広報宣伝活動への参加、アーカイブへの参加とあるが、これを小学生などの子供の有志もしくは子供サポーターなどを募りワーク ショップと育成、そして宣伝活動と絡めておこなってはどうか？ 仮に子供新聞を作り取材、原稿、レイアウトを季節ごとにおこなうなどすれば楽しいものができるのではないかと
59	(4) 創造スタッフ室だが、これはわざわざ創造スタッフ室とする必要はあるのだろうか？むしろ管内のフリースペースや緒室すべてが創造空間と云う考 えでよいのではないかと？ この部屋は制作室なり作業室でよいのではないかと？

60	<p>(3) 利用の範囲・内容の中で市民が利用するエリアとある。その中の交流エリアで将棋盤、碁盤の貸出しをおこなってほしい。小田原には歴史に残る囲碁の天才が在住なのに囲碁についてなんらおこなっていない。他の項で「小田原ゆかりの文化人材を活かし～」とあるのにこれについてはまったく遅れている。平塚では財団まであるのにだ。遅ればせながら小田原も少しずつでも囲碁を広めていくべきである。その施策のひとつとして市民ホールにて囲碁将棋の普及に努めていただきたい。</p>
61	<p>芸術文化創造センターが小田原文化の中核センターであり続けるためには、「市民による運営管理委員会」が必須でしょう。委員会と市役所、芸術文化創造センター管理部門との位置関係は議論されるべきですが、機能として市民が運営管理に関わる場が継続して存在しなければ、本来の継続的な主体的・自主的市民参加の仕組みにはならない、と思います。そして、この委員会は、既存の諸団体に任せることなく、市民への公募によって構成されるべきであると考えます。</p>
62	<p>P19市民参加の内容 市民の力をたんなるお手伝い、安価なボランティアと考えず、運営主体の一員として対等なテーブルに付けるような運営を希望します。</p>
63	<p>現市民会館大ホール等の公演補助スタッフグループの一覧。”活動記録”等の情報公開 *音楽・演劇・その他、市内の鑑賞グループ 及び 組織の実体を調べてほしい（市報等で呼びかけ）今後の「友の会組織立ち上げ」に役立つ</p>
64	<p>この創造センター開設を機に、市民ニーズや提案（P.12）を今後積極的に調査していただき、それを十分に活かして欲しいと考えます。この調査はスポットではなく、継続的に（P.34）そして出来るだけ幅広く行っていただきたいと考えます。調査の結果、それを活かす場合には何らかの広報媒体に公開をし、市民が意見や要望の手ごたえを感じられるようなサイクルが必要だと思います。</p>
65	<p>芸術文化の創造性を活かしたまちづくり・ひとづくりを実現するために、市民参加を積極的に取り入れた運営を行っていく…という理念は、とても喜ばしいと思います。その中で、「創造スタッフ室」の設置がありますが、そうした“部活”に熱心では無い“帰宅部”の人達にも開かれたセンターであって欲しいと思います。芸術文化に関心があるが活動に自ら参画するまでではない…といった方々が、「今 または これから地域でどんな企画・催事があるか?」「こんなことが観たい、知りたい、聴きたい!」…といったことを気軽に尋ねられるコンシェルジュ・カウンターがあれば良いなあ…と思います。</p>
66	<p>各項目については、まさにこれから煮詰めていく内容と拝察いたしますが、芸術文化創造センターの設立に向け、既存の枠を超えた市民委員と、専門家とから構成される運営委員会が必要となろうかと思えます。専門家には会館運営の専門家、パフォーマンスを実際に行う専門家や、市民参加の専門家など、多岐にわたるメンバーの参加を依頼する。当然ここには、行政側の委員も参加し、3者委員会の構成で様々な項目を審議していくことになろうかと思えます。</p>
67	<p>21ページの（4）創造スタッフ室は重要なカギを握る場所となろうかと思われます。先に述べた運営委員会への現場の情報を上げる場所でもあり、また逆に運営委員会の市民への開かれた情報交換の場所にもなりえます。ここを、一部の常連の屯す場所ではなく、開かれた場所としてかつ有効に機能するべく今後知恵を絞ることが、実際の活動の成否を握ることにもなろうかと思えます。</p>

5. 施設提供

No.	意見
68	これからの文化を考えるにそれぞれの団体が入場料をとって団体の資金をつくっていくことも必要となる。そのときに会場費(使用料)が入場料をとっているから入場料は高くなるということは考えねばならない。いくらまでならどうするかということは管理運営である。
69	定期休館日なしとのことでしたが、近郊の施設にはだいたい、定期休館日があります。それでなくても、平日などは来館者も少なく、巨大な施設が空疎な感じがします。そもそも人が来ないのに、スタッフだけは常駐していて、人件費ばかりかさむのではないのでしょうか。毎週とはいいませんが、月1回から2回、休館日があっても不便は感じないと思います。
70	今後は具体的に市民にとって使いやすく、いつも利用者の多いセンター運営について考える所に来ました。これまでの管理運営部会のまとめを読むと、利用に関するルール作りをかなり厳密に決める事をめざしている様にみえます。元々市民ホールの基本計画は、集う・楽しむ・出会う・にぎわう・育てる・広げるとあり、運営には気持ちを楽しみ、足を向ける、立寄る、見る、聴く、演じる、など市民には出来るだけ、身近なホールにする必要があり、それに沿った利用ルールにする事を第一にしたいと考えます。
71	p 24 (4) ?? 小田原市民だけのものではありませんが、やはり、なんらかの優遇は欲しいと思います。(申し込み期日に差をつける等)。
72	「市民ホール」から「芸術文化創造センター」へと基本的な考えを拡げることによって4つの使命のうち、施設の提供について市民が改築を望む大きなポイントのひとつです。自主事業や市民参加の企画も大切な願うところですが、過去に利用してきた個人や団体が今までの市民会館としての利用実績から離れて利用しにくくならないか心配です。運営上の骨子の上に、利用者が有効に発想を狭められることなく利用出来るよう充分に考慮していただきたいと思います。
73	・P24に関連して利用手続き 簡略にいて気軽に利用できるようにしてほしい。 また使用料はなるべく安く、減免も充分考慮してほしい。
74	申込みの特例として、2年前からの申込みを受け付けるようにしてください(計画は2年前にスタートしているので)。

6. 広報

No.	意見
75	国の補助金、県の補助金の利用、イベント等を含め、このようなものがあるという一覧などを提出してもらいたい。
76	湯河原町に在住し、ピアノを教えています。湯河原にはお寺のホール以外、きちんとした施設がないことから、小田原市が整備する芸術文化創造センターに期待しています。ぜひとも、小田原市から西側の湯河原、真鶴、熱海などにも、チラシやポスターを貼っていただくことや、プレイガイドを設置してほしいと思います。

77	この新しいセンター(市民ホール)が今までにない表現のできる会場であり今までにない展示方法の可能性を持っていることを告知してほしい。現状のこのことからの解釈が行政や新居さんから発信される。たとえば県立劇場の“オフレコ”や新宿クリエイターズ・フェス、また国立新美術館の壁面展示方法などアイデアや知恵のあつまったものがいっぱいです。
78	(3) 広報計画①開館前の広報計画の計画の策定の中に広報の範囲が示されているのが周辺地域とぐらいいし明記されていないが、周辺地域だけとは云わずに小田急沿線、東海道沿線ぐらいいはカバーするぐらいいの広報範囲と開館当初よりすべきだと考える。 SNSなどでの情報発信についても開館前よりおこなうべき
79	芸術文化創造センターがオープンした後の広報戦略を具体的に考えなければ、折角の自主企画の努力も報われずに減衰してしまうことを、「第九」は明確に示していると感じました。行政も人手が足りないと言うならば、対象を重点化すべきです。従来発想の行政的公平性に囚われていては広報効果は分散してしまい、目的の最大効果を得ることは難しいでしょう。

7. 運営

No.	意見
80	管理運営の組織イメージ(想定)に市民が参加するとすればどこの位置になるのか。評価、市民のサポート、応援者だけであろうか。
81	・7.運営 ギャラリーチーフについて 年に1～2本の質の高い自主企画を実施していくためには、アート界に人脈を持ち、経験と意欲を持った人材が求められます。美術館で10～20年の経験がある学芸員・キュレーターの採用を求めます。
82	副館長の業務は館長、総務チーフ、制作チーフなどで分担できるように思われる。 また施設提供スタッフ、総務スタッフ、制作スタッフ、ギャラリースタッフもいくつかは兼務できるように思われる。
83	広報営業はむしろ制作だけに関わるわけではないだろうから独立させるべきではないか？
34	②【方向性】の中に施設職員の習熟による運営の安定化とあるが、分科会で専門委員から人件費の中から派遣社員などで職員は賄うむねの発言があったはたして期間が決まっていて労働賃金も安く不安定な雇用形態で習熟やモチベーションの維持、または責任感などが保てるのか？
84	【来館者サービス】飲食サービスについて レストランまたはカフェを独立を考える人たちへのチャレンジジョブとしてはどうか？ 数年間という期間限定でのテナント契約をおこない、契約終了後は県西地区での独立開業をお願いする。 ・既存のお店や会社ではないのでイベント時の融通がききやすい ・地元での独立を目指しているので地元観光客わけへだてなくサービスがおこなえる ・数年後に独立した際にその地域での市民ホールの情報発信拠点になってくれる ・ホール利用者での固定客がつくことにより、独立後にそのお店を中心とした地区に新たな文化が生まれる ・数年で入れ替わるのでレストランカフェ施設のマンネリ化を防ぐ
85	運営組織の考え方 いっそのこと新しい協会なり財団なり会社なりを作ってそこで管理運営を行ってはどうか？ そこでお役所や既存の団体などに影響をうけないような人たちで運営組織を作るとかはどうなのだろうか？

86	(3) リスクマネジメント 本項の中に職員に対する教育という文言が見当たらない。これではコンプライアンスの徹底は無理でしょう これだけで小田原市職員のコンプライアンスに対する意識の低さが見て取れる。新ホールの職員にその感覚は引き継いで欲しくはない。
87	②【基本的な維持管理業務】本項の内容とは少しずれるが、市民会館やかもめ図書館のピアノを新市民ホールで使えば新しく買う必要もなくなる、もしくは台数を抑えられるのではないか？
88	④個人情報保護、情報管理 個人情報もそうだが、情報発信の際のネットでのマナーなども重要。
89	運営組織について。 法律で「指定管理」か「直営」のどちらかを選択しなければいけないのは分かりますが、単純な二択は止めて欲しいです。 なぜなら両方とも問題点が多いからです。 どちらかがいいということではなく、どちらも大いに問題あり、というのが現状を知っている人の認識ではないかと思えます。 どちらかを選んだとしても、法律が許す範囲で出来る限りそのデメリットを減らし、より良くする為の可能性を探って頂きたいです。 例えば骨子案では、運営スタッフは専門家中心、市民はボランティアと位置付けているようですが、市民の中にもスキルや情熱のある方が既にいます。 そういう市民をスタッフとして採用する枠も必要ではないかと思えます。 その他デメリットを減らす試みを小田原方式と呼ぶなら、それは全国に先駆けた先進事例になるのではないのでしょうか。 法律がこうだからダメではなく、ギリギリまで「じたばた」して欲しいです。 それを智慧を使って考え出すのが専門家の仕事だと思います。
90	運営には「指定管理方式」があり、公共施設での活用も多いと聞く、しかし運営内容の成果生む判断は経営未経験者には難しい。よって将来担当する部署の職員より選抜して、実績のある藤沢・可児市等へ数ヶ月実習者を派遣、管理運営のノウハウ取得の研修を提案したい。
91	運営を指定管理者によって行っていくことは、若干の疑問があります。この業務が遂行されたときに結果が現れる対象は市民と市です。そこに利益を目的とした法人が代行者として入るとすれば、それは危険なことです。市民へのロイヤリティ、トラブルが生じたときの責任の在り方など、効率とコストダウンが優先され、公的機能がどこに行ってしまったのかというようなことが起こりえないか危惧されます。組織の中にはたとえ1名でも市の職員が必ずはいるべきと考えます。また、P.29の図にあるモニタリング・評価に関しては更に詳しい方法、規則などについて示していくべきと考えます。
92	<運営組織> 前の項で4, 5, 6項への市民参加の運営組織について言及しましたが、ここではより専門的な運営のための組織、言い換えれば人事運営の組織について述べられています。その組織とは別に、ここでも社外取締役のような、あるいはオンブズマンのような形で、市民委員の参加が必要と思われます。 専門家の参加ということでは、館長の諮問機関のように外部の専門家による運営参加も図り、小田原の外からの風も吹きこみ、更にヒューマンネットワークを活用する必要あると思われます。
93	<運営> 市の職員は市民を支えることをお願い致します。市民と同じ目線での話し合いが出来ることが大事になると思います。直営で市の職員の安住の地になるのもおかしいことですし、指定管理者でマニア化しても困りますし、企画も出来ないただの管理人も駄目です。

8. 収支

No.	意見
94	<p>芸術文化創造センターの管理運営費として、約6億円を見込まれているようですが、その中で、会館自主事業（会館主催の事業）に関する予算は、どのくらいの規模で考えておられますか？</p> <p>8年ほど前に私が調べた時には、小田原市民会館の自主事業費は8百万ほどだったと記憶していますが。</p> <p>今現在は、どのくらいの自主事業費を使っておられるのでしょうか？</p> <p>管理運営実施計画骨子案で今論議になっていることを実施するためには、相当な額がかかると思われます。神奈川芸術劇場の例もあります。絵に描いた餅にならない様、しっかりとした予算の検討をお願いします。</p>
95	<p>表記の事業計画の内容の中で収支について数字が入っておらず、タラればの収支バランス表だけを、しかもイメージだけで表している。</p> <p>P35 民間で事業計画をつくるなら数字が入っていない事業計画などあり得ない。</p> <p>この収支が崩れた場合（赤字）市民の税金負担は明らかであるがそのような場合事業計画の見直しをどのようにするのかの想定もない。</p>
96	<p>一般企業では、減価償却を踏まえた投資効果で投資の妥当性を判断するが、市の会計には減価償却という概念がなく、市民への投資効果を説明しづらい。</p> <p>しかし、建物設備のメンテナンス費用、設備ランニング費用、職員人件費は、精度の高い想定は可能なはずで、開催物から得られる収入も様々に想定ができるはずである。それらの数値シミュレーションを市民に公開して、市民が納得できるかどうかを諮るべきと思う。</p> <p>それができないのであれば、客観的な立場で収支シミュレーションを検証できる第三者機関を設けて、建設時の費用だけでなく、将来に亘って運営が健全に回るかどうかを検証して、その結果を市民に公開すべきであると思う。</p>
97	<p>芸術文化創造センター 管理運営実施計画もすべてお金次第である。</p> <p>8. 収支の考え方 経営的な視点を持って運営を行います。と明記しながら、経営学の視点が無0に等しい考えであります。</p> <p>収入、市の税金が半分を占めていて、さらに支出では、諸施設管理費が市の税金を予算化し捻出する管理運営では、芸術文化創造に税金が突出し、管理運営などあまりに無責任な計画案である。</p>
98	<p>明確になった範囲内で創造センターの年間計画を年初に公開、経営収支の公開</p>
99	<p>芸術文化創造センター建設の予算については様々な論議がされますが、実際にはそれを運用していくことのほうがより重要です。</p> <p>現在の情勢からすると、建設予算について上限設定されるであろう中で、積残された課題は管理運営で解決していかなければならないことになると推察されます。</p> <p>また、芸術文化育成について必ずしも基盤が十分でなかった中での立ち上げとなり（建て替えざるを得ない状況の中で）建物は50年以上持つと設計者の方は発言されておられますが、育成事業と並行して進めない限りは、世にいう箱モノだけが残る懸念も十分にあります。</p> <p>そのようにならないためにも、今後の芸術文化に対する予算は重要な意味を持ち、まさにそのことを起点として小田原市が創生、再生の成功例とならなければならぬと思います。</p>
100	<p>ハードの予算は決まりました。</p> <p>今度はソフトです。是非市の予算を増やして頂きたいと思います。</p> <p>この小田原にはやる気のある人が沢山います。これは大きな財産です。その人達のやる気を無くさせないでほしいと思います。</p>

9. 評価

No.	意見
28	(2) 事業の分類、Aの小田原市の主催事業だが、市の主催だからと半永久的に続けるのではなく、中には一度見直しや修正が必要な事業もあるのではないか？ 無くすとか止めるとかの仕分の話ではなく、より良い事業企画とするためにも一度、市、関係団体、そしてそれ以外の人間でのテコ入れ、もしくは再評価をすべきだと考える。
101	【評価の方法】の中に管理者への評価が含まれていない。派遣を含めた職員からの管理者への評価、外部からの管理者への評価も加えるべきかと考える。管理職に問題があったり発覚した場合の対処方法を小田原市の他組織の事例を教訓とし対策がうてるような組織体制が必要不可欠と考える。
102	これまでの芸術文化活動の評価が果たして十分できていたかと考えると、本資料にもその課題から整理されている部分は薄いように拝察いたします。今からでも遅くないので、それぞれの活動評価をち密に積み上げることが必要と思われます。この評価活動に当たっては、やはり市民、専門家、行政の3者委員会で構成し、芸術文化センターの活動だけの視点ではなく、民間の施設や、小田原以外の近隣（西湖、箱根など）地区、ひいては東京横浜などの位置づけも視野に入れた評価をすべきと思われます。芸術文化創造センターでのパフォーマンスだけでなく広範な範囲での公演参加（鑑賞）の体験に基づき、評価を行い、定期的に公開可能な報告書を作成することができる委員会とすべきと思います。

10. その他

No.	意見
103	市展と文化祭の関係を(写真、書、集会、彫塑)をどのようにするのか。 公募部門と招待部門等のことをはっきりと一元化すべきと思うが。
104	現実として行われている行事、イベントがこのセンターと合わせて、どのようにかかわるのか、シュミレーションする必要がある。それをどのように行政とその団体とが共有することができるか。
105	委員がよく替わるが、なぜですか。伊藤委員、桑谷委員は？
106	現在の市民会館は耐震化工事を行ったばかりで解体しまうのは工事の無駄使いにつながり税金の無駄づかいになってしまいます。無駄づかいとならない様、現在のままで使用を延長し芸術文化創造センターの建設を東日本大震災で被害を受けた所がふっこうの目渡がたってからにはいかがでしょう。
107	①事業　すでにプレ事業に向けて動いてる市民の方がいるようだが、あれは市の意図を汲んで動いているのか？まったく関係なくうごいているのか？

108	「未来への投資」が有効に活用されますよう 洋楽・邦楽・舞踊・演劇等の専門家の意見を充分取り入れて、是非使い勝手のよいホールの建設をお願い致します。
109	小沢前市長時代の城下町ホールの建設構想においては、国と県の両方から補助金が出る段取りであったが、今回の計画では、国のみから20億円が助成されると聞く。その他は市債で賄うとのことであるが、実質的には市民が負担することである。 当初の60億円の予定から、徐々に膨れあがって、直近では75億円を予定しているとの市議会での市側の答弁とのこと。仮にその金額で出来たにせよ、55億円を市民が負担するとなると1世帯あたり7万円以上になる。 さらには、東北復興建設需要がこれから本格化し、東京オリンピック関連需要も重なって、建設関係コストは毎月のように上がり続けている。 恐らくは、今の基本設計が元では、75億でも間に合わず、100億に迫る建設費が必要になるだろう。市民1世帯あたり10万円以上の負担を強いることになるだろう。 それだけの市民負担になることを市は積極的にアナウンスしないし、それに気づいている市民は少ない。それだけの市民負担があることを多くの市民が納得した上で建設推進をすべき責任が市にあると思う。
110	国からの補助等について、具体的に実施された組織（施設名）と補助金額を公開してほしい。 「オーケストラピット」を借金しても作ってほしい。しかも自動式で！ …この提案者に、次の項目を公開いただきたく連絡願いたい。 提案者は「プロのオペラ鑑賞」を目的とした「オケピット」設置提案か、「市民オペラ」のための提案か目的が見えない。又 何故自動化でなければならないかの理由も不明。 現市民オペラなら、現大ホールでも（最も使用経験無い程使われていないため掃除清掃要）上演可能です。
111	市民会館の利用されたデータがあればその分析を行い、創造センター稼働後のデータとの比較で今後の方向の示唆が得られるかもしれません。小田原市民の文化芸術の趣向はどのようなものがあり、市民会館の時代の市民の傾向はどのように変化してきたのでしょうか。ビッグデータの利用とまではいなくても、科学的な分析も並行して進められることを期待します。
112	公共施設建設に、人口20万人、年間予算600億円、地理的な条件、市民の特性、近郊市町の特性、その他多くの自治体の持つパラメータが存在するなか、その規模の運営に適した条件にもう少し説明が欲しいように思われます。多くの市費を投じて得られる効果が計画どおりであるかという点にも通じるところです。
113	駐車場の充実
114	グローバル化で、思想や時代の空気感の浸透圧が平準化し、逆に国家や民族への指向が強くなり、偏狭なナショナリズムに陥りそうな昨今ですが、アイデンティティを地域に求めた時に、橋上駅・駅ビル・ペDESTリアンデッキ・居酒屋・カラオケ・パチンコ・・・の駅前風景、幹線道路際の大型ショッピングモールなどの、全国どこにでもある画一的な諸相ではなく、地域ならではの自然文化歴史に、掘りどころが見つけれられるのではないのでしょうか？ 「“思い”がない土地は、ふるさとにならない」 日本の東海岸の爪痕が残ったまま3年が経ち、移転をめぐる声が新聞に掲載されていました。
115	今後の実施設計でも、管理運営は車の両輪です。引き続き、市民検討委員も含めて話し合っていかなばうまくいかないと感じています。 今迄のやり方は変えるべきです。ファシリテーターを介してではなくこれからは直接設計者、専門委員と話し合わねばうまくいかないと思っています。